

〈研究ノート〉

## 「制度設定者のレント」をめぐる一考察

杉崎 京太

1. はじめに
2. 市場という制度における「制度設定者のレント」再論
3. 小 括 ——市場における「制度設定者のレント」共有と「人倫の経済」の可能性

### 1. はじめに

新自由主義改革とグローバル化が進行する中で、それまでのシステムのあり方が問われることになった。国家や公共的団体の規制のもとにおかれていた市場において、規制を緩和し自由化することにより、効率的なシステムを形成できるといった見解が一世を風靡した。このグローバリゼーションと新自由主義改革をめぐる、筆者はGCES（Global Capital Exchanges States）構造論を提起し、GC主導の「制度同質化運動」としてグローバリゼーションをとらえ、GCとSの対抗関係の展開と、中心・周辺（ $k-\pi$ 関係）のもとで弱体化する周辺部Sから「退出」するBCPの流動化が、GCES構造の再編をもたらしているとした。その際、市場経済再編の動因が市場における「制度設定者のレント」をめぐる闘争によるとの議論を提起してきた。

本稿は、これまでの議論を整理しつつ、市場における「制度設定者レント」をめぐる闘争（対立と協商）について、さらに検討を進めるための考察を行うことを目的としている。これまでの方式を踏襲し、いくつかの命題として論点を整理していくことにしよう。

## 2. 市場という制度における「制度設定者のレント」再論

市場においては、自由競争が行われるためレントは発生しないというのが通説であった。

しかし、アダム・スミスが敢えて「見えざる手」と表現したように、不可視ではありながら「手」は存在する、というのが本稿の主張である。

市場という制度の設定においては、自然発生的なものから取引所のようなものまで、一対一からグローバルな取引まで多様であり、それぞれの場に「市場」は存在するが、特定の主体が取り扱う商品を定義し、交換手段としての通貨を決定し、市場における取引の手続きを決めることで市場は制度化される。アダム・スミスが驚いて見せたのは、制度化された市場内では、強制力を働かせなくとも需要と供給の間で価格と数量が決定されていくという点であった。経済学では、すでに設定された市場の下での価格決定のありかたが議論の対象とされてきたが、新自由主義改革とグローバル化は、従来の制度的前提そのものを破壊することになった。なぜなら、情報商品のような従来の商品の定義にあてはまらない商品が生まれ、そのもとで新たな市場が設定され、また、グローバル化のもとで、異なる市場規定により制度設定者間の闘争（対立と協商）が生ずることにより、誰がどのように市場を設定しているのかということ問うことなしに、市場内の価格決定だけを問題にすることの意味が問われることにもなったからである。そして、市場設定における自由放任は、市場を定義し市場を設定すること自体に創業者利益が生じる場合があることを明らかにしたのであり、このことは、翻って省みれば、既存の制度としての市場にも、制度設定者の存在が前提されることを明らかにしたからである。

### (1) 「制度設定者のレント」をめぐって

#### 命題

**「市場制度設定者のレントの源泉は市場参加者からの手数料に帰着する。」**

これが、市場という制度における制度設定者のレントの源泉である。このことは、同時に次のような内容を含むことになる。市場とは、交換関係に内在する非和解性を、マルクスの言う貨幣物神のもとで、和解的な交換関係に転換する「場」である。制度として市場を設定する者は、市場への参加者か

ら手数料を受け取るが、それは市場利用者が、和解的交換関係の場において、個別的で分散的な取引を、集約し集積した場として利用できることへの支払である。一国内市場は、多くの場合、国家的統治の内部に置かれてしまうが、国際的市場形成においては、制度としての市場を設定する中心国の役割が重要になる。このことは、別の場で論じるので、ここでは次の三点を指摘するにとどめよう。

第一に、市場制度設定者は、その市場の創業者であること。第二に、市場が自由な拡張性のもとにある場合には、自由な参入・退出を保証する自由主義こそが、創業者の落掌する手数料としてのレントを増加させる。第三に、市場を自由な拡張性のもとにおくことで「世界市場が創出」され、発生するレントは累積的に増加する。その際、市場制度の設定者は、市場内の価格決定を放任し、自由な価格決定にもとづく市場拡大を通じて、世界市場の「全体知」を獲得することが可能になる。

## (2) 景気循環と市場制度設定者のレント

### 命題

「市場における『全体知』に接近することで、市場の制度設定者は、市場の変動に関する先見性を獲得する可能性をもつ。」

市場制度設定者がプレイヤーとして市場行動をとらなくとも、市場の変動に対して常に「全体知」を働かせている。その知識は、制度設定者としての長期にわたる市場変動の歴史的経験から導かれたものであるが、制度設定者のもつ非対称的情報量の、市場参加者に対する優位性が、景気循環における市場の拡大・収縮のプロセスにおける危機の深まりを軽減する可能性をひろげる。

## (3) 市場制度の新たな試み

### 命題

「市場制度設定者の『全体知』における優位性を市場参加者が分有することで、情報の非対称性に基づく不平等を克服することが可能になる。」

世界経済における「中心・周辺関係 ( $k-\pi$  関係)」の基底にあるのは、中

心国による市場制度の設定における優位性であり、市場制度設定者が取得するレントの帰着の歪みにある。市場制度の設定者は多くの場合、世界経済の中心国に存在し、自らはプレイヤーにならなくとも、中心部の市場参加者がフォロワーとして二次的レントを周辺部で獲得することを助けることで、同質の市場を拡大し、自らのレントを拡大する。

このような非対称的な市場構造を是正するには、情報の非対称性に基づく制度設定者のレントを市場参加者に分有するシステムを、世界的市場において創出する必要がある。あらゆる市場参加者における「全体知」の分有こそが、市場参加者における不平等を克服するための新たな試みにほかならない。

### 3. 小 括 ——市場における「制度設定者のレント」共有と「人倫の経済」の可能性

新自由主義改革とグローバル化が進行するなかで、GCES 構造が析出され、市場制度の相対化が進むなかで、市場という制度の「制度設定者のレント」をめぐる競争が繰り返される「リヴァイアサンの闘争（対立と協商）」と、そこから疎外されている多数者の存在が、この世界の存立にかかわる根源的な問題であることが明らかになりつつある。あらゆる市場参加者が、市場という制度の制度設定者と同等の「全体知」を獲得し、市場諸力に身を任せるのではなく、自立的主体として市場に参加することで、はじめて市場における不平等性は克服され、人倫の経済の構築に一歩近づくことが可能となる。

本稿は、これまでの「研究ノート」における「制度設定者のレント」をめぐる諸論考の「小括」をなすものなので、細かい注は省略した。(2018年9月記)

#### 参考文献

- 青才高志 (1990) 『利潤論の展開 — 概念と機構—』 時潮社  
 石崎昭彦 (1990) 『日米経済の逆転』 東京大学出版会  
 伊藤誠 (2006) 『幻滅の資本主義』 大月書店  
 伊藤誠 (1989) 『資本主義経済の理論』 岩波書店  
 稲富信博 (2000) 『イギリス資本市場の形成と機構』 九州大学出版会  
 宇野弘蔵 (1962) 『経済学方法論』 東京大学出版会

- 青木昌彦 (1995) 『経済システムの進化と多元性—比較制度分析序説—』 東洋経済新報社
- 青木昌彦／奥野正寛編 (1996) 『経済システムの比較制度分析』 東京大学出版会
- 大内力 (1970) 『国家独占資本主義』 東京大学出版会
- 大内力 (1983) 『国家独占資本主義・破綻の構造』 御茶の水書房
- 大内力 (1991) 『世界経済論』 東京大学出版会
- 小幡道昭 (1998) 『価値論の展開 無規律性・階級性・歴史性』 東京大学出版会
- 加藤栄一 (1979) 「組織資本主義論と現代資本主義論」 『経済評論』 1979年7月号
- 加藤栄一 (2006) 『現代資本主義と福祉国家』 ミネルヴァ書房
- 金子勝 (1997) 『市場と制度の政治経済学』
- 河合正弘 (1994) 『国家金融論』 東京大学出版会
- 河村哲二 (1996) 『制度と組織の経済学』 日本評論社
- 工藤章 (1999) 『20世紀ドイツ資本主義』 東京大学出版会
- 菅原陽心 (1997) 『商業資本と市場重層化』 御茶の水書房
- 杉崎京太 (1996) 「鉄鋼業の盛衰」 湯沢威編『イギリス経済史』 有斐閣
- 杉崎京太 (1998)、(1999)、(2000)、(2001)、(2002)、(2003)、(2004)、(2005)、(2006-c)、(2007)、(2008-c)、(2009-c)、(2010-c)、(2011)、(2012)、(2013)、(2014)、(2015)、(2016)、(2017)、(2018)。「研究ノート グローバリゼーションの今日的意味をめぐって (1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)、(7)、(8)、(9)、(10)、(11)、(12)、(13)、(14)、(15)、(16)、(17)、(18)、(19)、(20)、(21)」 津田塾大学『国際研究所報』第33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53号
- 杉崎京太 (2006-a) 「欧州統合下のFDIの展開—「神聖ならざる三位一体」から「歪んだ四面体」の溶解へ—」 津田塾大学『国際関係学研究』第32号
- 杉崎京太 (2006-b) 「研究ノート「グローバリゼーション」と欧州統合の現段階—市場の流動化と社会的規制をめぐって—」 津田塾大学国際研究所『総合研究』第4号
- 杉崎京太 (2007) 「景気循環の収斂と乖離の基礎過程—グローバル化と欧州統合の現段階—」、小川英治編『EUスタディーズ2 経済統合』勁草書房
- 杉崎京太 (2008-a) 「〈研究ノート〉グローバル化と『制度設定者のレント』をめぐる諸問題—いくつかの命題をめぐって—」 『津田塾大学紀要』第40号
- 杉崎京太 (2008-b) “Convergence and Divergence of Business Cycles in European Integration: Reconsidering the Meaning of ‘Economic Integration’ in the Context of Globalisation”, 津田塾大学『国際関係学研究』No.34
- 杉崎京太 (2009-a) 「〈研究ノート〉『制度設定者のレント』をめぐる一考察—『内部労働市場論』に関するいくつかの命題をめぐって—」 『津田塾大学紀要』第41号、(pp.135-144)
- 杉崎京太 (2009-b) 「『大転換』再考—『溶解する四面体』モデルとの関連で—」 津田塾大学『国際関係学研究』No.35

- 杉崎京太 (2010-a) 「〈研究ノート〉グローバル資本主義と『制度設定者のレント』—資本主義と制度問題に関するいくつかの命題—」 『津田塾大学紀要』 第 42 号
- 杉崎京太 (2010-b) 「欧州通貨統合と『大西洋回廊』の構築—ドル・ユーロ連結「対環節」の不安定性をめぐって」 津田塾大学『国際関係学研究』 No.36
- Takamoto Sugisaki, 〈Reserch Note〉 A “Dissolving Tetrahedron” Model and the “Libsycti” Model in the Global Financial Crisis: The Market Creator’ s Rent in the EU” 津田塾大学『国際関係学研究』 2011 年 3 月、No.37 (pp.1-8)
- 杉崎京太 (2011) 「〈研究ノート〉制度転換における『制度設定者のレント』をめぐって—制度としての資本主義の体系に関するいくつかの命題—」 2011 年 3 月『津田塾大学紀要』 第 43 号、(pp.141-149)
- 杉崎京太 (2012) 「〈研究ノート〉世界市場における『制度設定者のレント』をめぐって—資本主義における制度設定者のレント」 2012 年 3 月『津田塾大学紀要』 第 44 号、(pp.69-75)
- 杉崎京太 (2013-a) 「〈研究ノート〉贈与における『制度設定者のレント』をめぐって—制度としての資本主義の体系に関するいくつかの命題—」 2013 年 3 月『津田塾大学紀要』 第 45 号、(pp.141-149)
- 杉崎京太 (2013-b) 「〈研究ノート〉貨幣の暴力をめぐっての一考察」 2013 年 3 月『津田塾大学総合研究』 第 6 号、(pp.114-130)
- 鈴木鴻一郎編 (1960, 1962) 『経済学原理 上下』 東京大学出版会
- 佐美光彦 (1994) 『世界大恐慌』 御茶の水書房
- 武井邦夫 (1972) 『利子生み資本の理論』 時潮社
- 立石剛 (2000) 『米国経済再生と通商政策』 同文館
- 玉田美治 (2006) 『フランス資本主義』 桜井書店
- 戸原四郎 (2006) 『ドイツ資本主義』 桜井書店
- 高山与志子 (2001) 『レイバー・デバイド 中流崩壊』 日本経済新聞社
- 中村泰治 (2005) 『恐慌と不況』 御茶の水書房
- 中山弘正 (2003) 『現代の世界経済』 岩波書店
- 馬場宏二 (1986) 『富裕化と金融資本』 ミネルヴァ書房
- 馬場宏二 (2005) 『もう一つの経済学 批判と好奇心』 御茶の水書房
- 日高晋 (1972) 『商業資本の理論』 時潮社
- 村上泰亮 (1992) 『反古典の政治経済学 上下』 中央公論社
- 百瀬宏 (1988) 『小国—歴史に見る理念と現実—』 岩波書店
- 山口重克 (1998) 『商業資本論の諸問題』 御茶の水書房
- 山口重克編 (2004) 『新版 市場経済 歴史・思想・現在』 名古屋大学出版会
- 湯沢威編 (1996) 『イギリス経済史』 有斐閣
- Deutsche Bundesbank *Monthly Report*.

Deutsche Bundesbank *International Capital Links*.

England Bank *Monthly Report*.

U. K. HM Treasury, *UK Membership of the Single Currency: An assessment of the five tests* (HM Treasury, Cm5776, 2003)

Department of Commerce, U.S, *Survey of Current Business*. Anderson J. (1999) *German Unification and the Union of Europe*, Cambridge U.P., Cambridge.

Barbour, P. ed. (1996) *The European Union Handbook*, Fitzroy Dearborn Publishers, Chicago.

Barrell, R. and Pain, N. (1999) *Innovation, Investment and the Diffusion of Technology in Europe*, Cambridge University Press, Cambridge.

Bergsten, F. et al. (2005) *The United States and the World Economy*, Washington D. C. IIE.

Bhagwati, Jagdish, *In Defense of Globalization*, (Oxford University Press.) ジャグディッシュ・バグワティ 著、鈴木主税・桃井緑美子訳『グローバルイゼーションを擁護する』日本経済新聞社

Bishop, M. and Kay, J. (1993) *European Mergers and Merger Policy*, Oxford U. P., Oxford.

Bloomfield Jr., James A. (2002) *Global Markets and National Interests: The new geopolitics of energy, capital and formation*, The CSIS Press, Washington.

Buckley, P. J. (1995) *Foreign Direct Investment and Multinational Enterprises*, Macmillan, London.

Burrows, R. & Loader B. ed. (1994) *Towards a Post-Fordist Welfare State?* London, Routledge.

Burton, F., Yamin, M. and Young, S. (1996) *International Business and Europe in Transition*, Macmillan, London.

Buxton, T., Chapman, P. and Temple, P. (1994) *Britain's Economic Performance*, Routledge, London.

Cadot, O. Gabel, H. L. Story J. and Webber, D. (1996) *European Casebook on industrial and Trade Policy*, Prentice Hall, London.

Chisholm, M. (1995) *Britain on the edge of Europe*, Routledge, London.

Cochrane, A. & Clarke J. ed. (1993) *Comparing Welfare States: Britain in International Context*, The Open University, Sage Publications.

Cool, K., Neven, D. J. and Walter, I. (1992) *European Industrial Restructuring in the 1990s*, Macmillan, London.

Crawford, M. (1993) *One Money for Europe?*, Macmillan, London.

Crompton, Rosemary (1998) *Class and Stratification*, 2nd ed. Cambridge, Polity Press.

Dent, C. M. (1997) *The European Economy: The Global Context*, Routledge, London.

Dicker, P. (1998) *Global shift: Transforming the World Economy, Third Edition*, London, Paul Chapman Publishing.

Dobson, A. P. (1995) *Anglo-American Relations in the Twentieth Century*, London, Routledge.

Doremus, P. N., Keller, W. M., Pauly, L. W. and Reich, S. (1998) *The Myth of the Global Corporation*,

Princeton Univ. Press.

Dow, C. (1998) *Major Recessions*. Oxford U.P..

Dunning, J. H. ed. (1997) *Governments, Globalization, and International Business*, Oxford University Press, Oxford.

Dunning, J. H. (1993) *Multinational Enterprise and the Global Economy*, Addison-Wesley, Wokingham.

Dyson, K. & Featherstone, K. (2003) *The Road to Maastricht*, Oxford U.P.

Esping-Anderson, Gosta (1990) *The Three Worlds of Welfare Capitalism*, Cambridge, Polity Press.

European Commission (1998) *The Competitiveness of European Industry 1998 Report*, Luxembourg.

European Commission (1999) *European Union Direct Investment Yearbook 1998: Analytical Aspects*, Luxembourg.

European Commission (1999) *Panorama, 1998*, Luxembourg.

Felstead, A. and Jewson, N. (1999) *Global Trends in Flexible Labour*, Macmillan, London.

Friedman, T. L. (2005) *The World Is Flat: A Brief History of the Twentieth Century. Updated and Expanded Edition*.

Friedman, T. L. (2005) *The World Is Flat: A Brief History of the Twentieth Century. Updated and Expanded Edition*. 伏見威蕃訳『フラット化する世界 経済の大転換と人間の未来 上下』日本経済新聞社

Fynes, B. and Ennis, S. (1997) *Competing from the Periphery: Core Issues in International Business*, The Dryden Press, London.

George V. & Wilding P. (1999) *British Society and Social Welfare*, London, Macmillan.

George, S. (1998) *An Awkward Partner: Britain in the European Community, Third ed.* Oxford University Press.

Gilpin, R. (2000) *The Challenge of Global Capitalism: The world economy in the 21<sup>st</sup> century*, Princeton University Press, 古城佳子訳『グローバル資本主義 危機か繁栄か』東洋経済新報社

Goodman, A., Johnson, P. & Webb, S. (1997) *Inequality in the UK*, Oxford Univ. Press.

Grauwe, P. de (1992) *The Economic of Monetary Integration*, Oxford U.P., Oxford. 金俊昊訳『通貨統合の経済学』文真堂、1995年

Grauwe, P. de (1992) *The Economic of Monetary Integration*, Oxford U.P., Oxford.

Gros, d. & Thyngensen, N. (1998) *European Monetary Integration, 2<sup>nd</sup> ed.* Longman.

Hardt, M. & Negri, A. (2000) *Empire*, Harvard University Press.

Held, D., McGrew, A. Goldblatt, D. & Perraton, J. (1999) *Global Transformations: Politics Economics and Culture*. 古城利明・白井久和・滝田賢治・星野智訳『グローバル・トランスフォーメーションズ 政治・経済・文化』中央大学出版部

Hertz, Noreena (2001) *The Silent Takeover: Global Capitalism and the Death of Democracy*, The Free Press,



- NY.
- INSEE (1997) *Tableaux de l'Économie Française 21e édition*.
- James, H. (2001) *The End of Globalization: Lessons from Great Depression*, Harvard University Press, 高遠裕子訳『グローバリゼーションの終焉』日本経済新聞社
- Joint, P, Courbon, J. P., Pauline, M. et Viau, J.-C. (1992) *La Géographie de l'Europe des 12*, Nathan, Paris.
- Joseph Rowntree Foundation (1995) *Inquiry into Income and Wealth, vol.1*, York, Joseph Rowntree Foundation.
- Kahler, M. (1998) *Capital Flows and Financial Crisis*, Manchester Univ. Press.
- Karl Polanyi, *Great Transformation*, 1957. 吉沢英成・野口健彦・長尾史郎・杉村芳美訳『大転換』東洋経済新報社、1975年
- Keasey, K., Thompson, S. and Wright, M. eds. (1997) *Corporate Governance*, Oxford Univ. Press.
- Kenen, P. B. (1995) *Economic and Monetary Union in Europe*, Cambridge U. P., Cambridge.
- Kindleberger, C. P. (1987) *International Capital Movements*. Cambridge U. P. 長谷川聰哲『国際資本移動論』多賀出版、1991年
- Krugman, P. (1999) *The Return of Depression Economics*, New York, W.W. Norton & Company.
- Marais, Hein. (1998) *South Africa: Limits to Change: The Political Economy of Transformation*, UCT Press (Pty) Ltd.
- Milner, H. (1989) *Sweden: Social Democracy in Practice*, Oxford University Press.
- Mundell, R. A. (1961) "A theory of optimum currency policy areas". *AER51* (September)
- Nicolas Crafts and Gianni Toniolo, eds. (1996) *Economic Growth in Europe since 1945*, Cambridge U. P.
- Niehans, J., (1984) *Internationa Monetary Economics*, The John Hopkins University Press. 天野明弘・井川一宏・出井文男訳『国際金融のマクロ経済学』東京大学出版会、1986年
- Nye, Jr., J. S. (2002) *The Pradox of American Power: Why the World's only superpower can't go it alone*, Oxford University Press.
- O'Connor, J., Orloff, A. H. & Shaver, S. (1999) *States, Markets, Families: Gender Liberalism and Social Policy in Australia, Canada, Great Britain and the United States*, Cambridge University Press.
- Oliver de Bandt, Heinz Hermann, Giuseppe Parigi eds., *Convergence or Divergence in Europe? : Growth and Business Cycles in France and Germany and Italy* (Springer, 2006)
- Oppenheim, C. & Harker, L. (1996) *Poverty: the facts*, London, Child Poverty Action Group.
- Ovendale, R. (1998) *Anglo-American Relations in the Twentieth Century*, London, Macmillan.
- Pelkamns, J. (1997) *European Integration*, Pearson Education. 田中素香訳『EU 経済統合 深化と拡大の総合分析』文真堂、2004年
- Pierson, C. (1998) *Bryond the Welfare State, 2nd ed.*, Cambridge, Polity Press.
- Reich, R. B. (1991) *The Works of Nations: preparing Ourselves for 21st-Century Capitalism*. 中谷巖訳『ザ・

ワークス・オブ・ネーションズ 21世紀資本主義のイメージ』ダイヤモンド社

Sassen, S. (1998) *Globalization and Its Discontents*, New York, The New Press.

Standing, G. (1999) *Global Labour Flexibility*, Macmillan, London.

Stiglitz, J. E. (2002) *Globalization and Its Discontents*, New York, W. W. Norton & Company 鈴木主税訳『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』徳間書店

Tindale, S. (1996) *The State and the Nations*, London, IPP.

UNCTAD (1996) *Transnational Corporations and World Development*, ITP, London.

Wallace, C. D. and Kline, J. M. (1992) *EC 92 and Changing Global Investment Patterns*, Centre for Strategic and International Studies, Washington DC.

Yergin, D. & Stanislaw, J. 1998, *The Commanding Heights: The Battle for the World economy*, A Touchstone Books, N. Y.. 山岡洋一訳『市場対国家 (上)(下)』日本経済新聞社